





報道発表資料の配付日時 8月4日(水) 15時00分

発表項目 (行事名)	みんわらウィーク×北海道米『えみまる』のコラボ		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>令和2年から本格的に販売が開始された北海道米「えみまる」は、稲作の省力化技術の一つである直播栽培（ビニールハウスでの育苗をせず、田んぼに直接種をまく栽培）に適した品種であり、北海道米の持続的な生産につながる品種として期待されています。</p> <p>より多くの方に「えみまる」の魅力をもっとPRするため、ホクレン及び北海道米販売拡大委員会では、吉本興業株式会社が8月8日の「道民笑いの日」に開催する「みんわらウィーク」等と連携し、「えみまる」のプロモーションを実施することとなりましたので、お知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 「みんわらウィーク」とコラボしたサンプル米配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌、釧路で開催されるイベント会場にご来場いただいた方に、「みんわらウィーク」とコラボした特製パッケージのサンプル米を配布。 <p>(札幌会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：8/8(日) 13:00～/15:45～(2回) ・場所：サッポロファクトリーホール ・内容：オンライン生配信 <p>(釧路会場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：8/8(日) 12:00～/15:30～(2回) ・場所：釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞 ・内容：お笑いライブ <p>※イベント詳細は右記QRコードご参照。</p>		
	 <p style="text-align: right;">【パッケージイメージ】</p> 		
	<p>2 えみまるを使用したおにぎりの販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/6(金)～8/31(火)の期間限定で「えみまる」を使用したおにぎりを以下の店舗で販売。 ・お米は、ライスボールプレーヤー川原氏監修のもとホクレン農業総合研究所が研究した、えみまるでおにぎりをつくるのに適した、えみまる：ふっくりんこ＝7：3のスペシャルブレンド。 <p><販売店舗></p> <p>「おむすびきゅうさん」(札幌市東区北9条東1丁目3-10)</p> <p>「和味茶屋こめまる」(札幌市中央区北2条東4丁目 サッポロファクトリー2条館 B1)</p> <p>「おにぎり屋大通店」(札幌市中央区大通西4丁目1新大通ビルB2)</p>		
参考			
報道(取材)に当たってのお願い	<p>8月8日の「笑いの日」に開催される「みんわらウィーク」と北海道米の期待の新品種「えみまる(笑みまる)」が連携した取組です。</p> <p>暑い日が続く中、北海道米を美味しく食べて、健康な体づくりにつなげていただきたいと思いますと考えておりますので、積極的な報道をお願いいたします。</p>		
他のクラブとの関係	同時配付	ホクレン農業協同組合連合会・北海道米販売拡大委員会	
	同時レク	より同日リリース予定。【別添参照】	
担当(連絡先)	<p>農政部生産振興局農産振興課(担当者 斉藤、加藤、山本)</p> <p>TEL(ダイヤルイン) 011-204-5435 (内線) 27-724</p>		

報道関係者各位

ホクレン農業協同組合連合会
北海道米販売拡大委員会

みんなわらウィークと北海道米「えみまる（えみまる）」 コラボレーションを実施します！

北海道米が抱える課題のひとつとして、生産者の高齢化等による「水稻作付戸数の減少」があります。そのような中で、作付面積を守ることは、生産者1戸あたりの作付面積が増加傾向となることを指しております。





しかしながら、稲作における「育苗」と「田植え」の労力は非常に大きいことから、これまでどおり手間ひまを惜しまない栽培に加え、1戸あたりの作付面積拡大に向けては、省力化技術の導入が欠かせません。

「作付面積を守る」ことは「消費者の食を守る」ことです。

省力化技術のひとつに田んぼに直接種を播く農法「直播栽培」があり、令和元年産にデビューした「えみまる」は、直播栽培に適した品種です。

「えみまる」は、柔らかさ・粘りが特長で高い食味評価となっており、一般財団法人 日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて11年連続特Aランクを獲得している「ななつぼし」並みとされております。(道総研 上川農業試験場)

北海道米の持続的な生産(=SDGs)に繋がる内容として、下記の観点に取り組んでおります。

 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>課題に対応した品種開発への参画、また、普及に向けた取り組みは、作付面積の維持に貢献し、食糧自給率向上・穀物の輸入量削減など、消費者の食を守ることに繋がります。</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>直播栽培は、ハウスでの「育苗工程」がない(※) = CO²の削減が可能なることから、「気候変動に具体的な対策を」実施しつつ、作付面積の維持に繋がります。 ※育苗資材使用等の削減を図ることが可能</p>
 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>ホクレン農業協同組合連合会(以下、ホクレン)/北海道米販売拡大委員会は、SDGsに積極的に取り組んでいる吉本興業(株)、ならびに、吉本興業(株)と包括連携協定を締結している北海道とタッグを組んだプロモーションを行います。</p>

また、今回、「ライスボールプレイヤー」の川原悟さん監修でホクレン農業総合研究所が「えみまるおにぎり」を作るための最適なブレンド比率を研究しました。

「えみまる」使用のおにぎりを8月6日より8月31日の期間限定で札幌市内3店舗にて販売いたします。

「みんなわらウィーク(イベント)」や「えみまるおにぎり」の販売を通じて、多くの皆様に知っていただき、「えみまる」を食べていただければと考えております。

■主な取り組み内容

□イベント

8月8日は北海道が「道民笑いの日」と定めており、各種イベントを通じ、笑いによる健康づくりについて道民に普及しております。今年は、「道民笑いの日」当日に、吉本興業㈱がイベント「みんなわらウィーク」を開催いたします。

イベント概要

- ・サッポロファクトリーホールをキーステーションとしたオンライン生配信 (13:00～14:30/15:45～17:15)
- ・釧路市生涯学習センター『まなぼつと幣舞』(釧路市幣舞町4-28)における「道民笑いの日」お笑いライブ (12:00～/15:30～)

なお、オンライン生配信は、MC にタカアンドトシさん、ゲストにおいでやすこがさんが登場します。吉本興業㈱の若手芸人が道内各地から中継を結び、ご当地の観光情報や名産品などをレポートし、全国へ発信します。

オンライン生配信中に「えみまるおにぎり」の紹介ならびにMCとゲストによる試食が行われます。

また、イベント会場(サッポロファクトリーホール、まなぼつと幣舞)にご来場いただいた方に対し、吉本興業㈱とコラボした特別バージョンの「笑みまる」パッケージに入った「えみまる」サンプル(300g=2合)を約2,000名へプレゼントします。

イベント URL: <https://min-wara.com/>



□おにぎり

期間限定(8月6日～8月31日(予定))で「えみまる」を使用したおにぎりを以下店舗で販売します。

使用しているお米は、おにぎり用スペシャルブレンド【「えみまる」70%・「ふっくらんこ」30%】です。

- ・おむすびきゆうさん(札幌市東区北9条東1丁目3-10)
- ・和味茶屋こめまる(札幌市中央区北2条東4丁目 サッポロファクトリー 2条館 B1階)
- ・おにぎり屋 大通店(札幌市中央区大通西4丁目1 新大通ビル B2階)

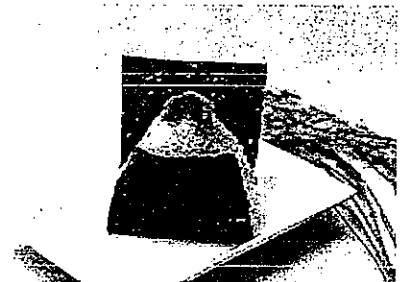
■特別バージョン「笑みまる」 パッケージ



■みんなわらウィーク ロゴ



■えみまるおにぎり (イメージ)



<本件に関するお問い合わせ先>

ホクレン農業協同組合連合会 米穀事業本部 米穀部

主食課 TEL: 011-232-6233

ほおばる、がんばる。
北海道米
LOVE



生産者も

も笑顔になるお米。

ちよくはん
直播

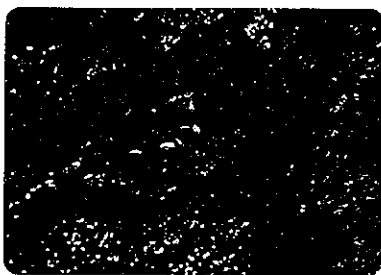
品種『えみまる』

「植える」から「まく」へ
『えみまる』が育てる未来の米作り。

高齢による離農や農業の担い手不足によって、北海道では稲作の大規模化が進んでいます。米作りが盛んな妹背牛町で、熊谷勝さんが直播栽培を始めたのは約25年前。「うちも8haから約33haに面積が拡大し、ハウスで苗を育て、その苗を田んぼに移植する従来のやり方を家族で続けるには限界があると感じていました。省力化の一つの手段として必要になる時代が来るだろうと考え、直播栽培を始めました」と熊谷さんは当時を振り返ります。

JA北いぶき管内(※1)の生産者により組織される「妹背牛町水稲直播研究会」では、1997年の発足時から毎年定期的に生育調査を行い、一年を通して直播栽培の勉強に余念がありません。「僕の場合、移植より収量が低かったのはわずかで、上回った年の方が圧倒的に多い」と笑顔を見せます。直播米の栽培は、「自分の技術も進化していくのがいいところ」と熊谷さん。「直播をやってきたから、水稲栽培の原理が理解できたと思う。種から穂が実る姿を見られると米作りの考え方が変わります」。新しい時代は、北国の米作りでも始まっています。

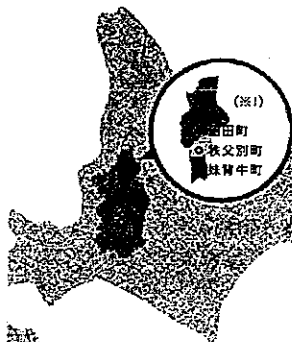
※直播栽培：通常の栽培方法とは異なり、水田に直接種をまいていく栽培方法。



播種直後の様子



発芽の様子



JA北いぶき／北海道の空知エリアにある3つの町(沼田町・扶父別町・妹背牛町)で構成。

空知平野の自然の恵みを活かし、特に水稲作においては北海道でも有数の良質米生産地として評価されています。

妹背牛町水稲直播研究会 会長 熊谷 勝さん

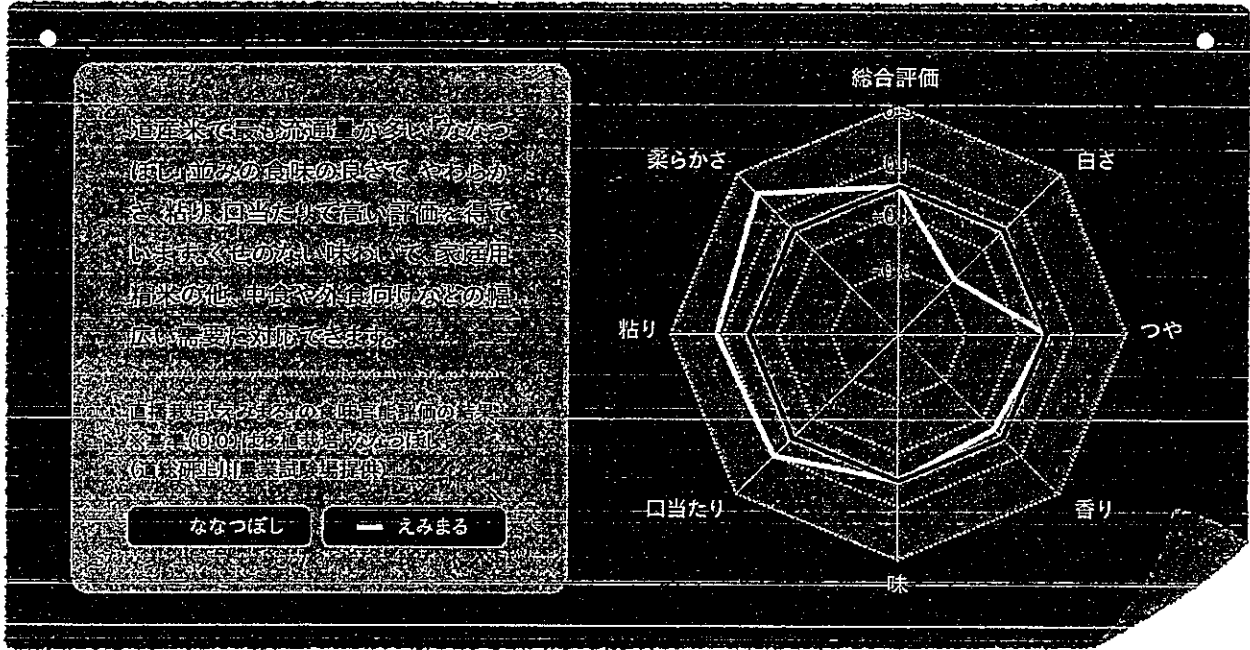
「1986年に就農。その年から米作りを始め、現在は約33haもの土地に、ゆめぴりか、ななつばし、直播向け品種のえみまる、ほじまるを栽培。2019年より「空知地区水稲直播連絡協議会」会長としても活躍。



ほおばる。がんばる。
北海道米
LOVE

食味は特A米の『ななつぼし』並み。
注目の米『えみまる』。

※特A：一般社団法人日本穀物検定協会調べ（令和2年度産米）



直産米で長い流通「が」が多い『ななつぼし』並みの食味の良さを、やわらかさ、粘り、口当たりで高い評価を得てしまえば、世のなかには味、口当たり、粘り、口当りの他、中食や外食向けなどの幅広い需要に対応できます。

直産米であるの、流通距離の長さを、(0)の値に近づける目、(6)の値に近づける目。

「えみまる」に込めた思い

生産者に向けて

農作業の省力化と、良食味米の両方を実現した、笑顔になれる米作り。

消費者に向けて

生産者が笑顔で作ったお米で、より一層笑顔になれる、おいしいお米。

名称の由来

従来の直播向け品種『ほしまる』の“まる”、おいしさと省力的な生産のしやすさで、消費者・生産者ともに笑顔になるという意味を込めて『えみまる』と名付けられました。



※画像はイメージです。

ひとつでも当てはまったら、『えみまる』をぜひお選びください。

ありきたりではない、“笑顔”が伝わる贈り物をしたい。

幸せな米作りを実現する北海道のお米と、その生産者を応援したい。

一日の活力となる朝食。美味しい北海道米で朝ご飯習慣をつけたい。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な米作りのために。

高齢化による農業の担い手の減少が進み、労働力不足も深刻さを増す中、作付面積の維持を図るためには稲作の省力化が喫緊の課題です。北海道米の持続的な生産につなげるために品種改良を重ね、誕生したのが『えみまる』です。